

### 3 - 12 館山における地殻変動連続観測 (4)

#### Crustal Strain Observation at Tateyama Crustal Observatory(4)

国土地理院地殻調査部

Crustal Dynamics Department, Geographical Survey Institute

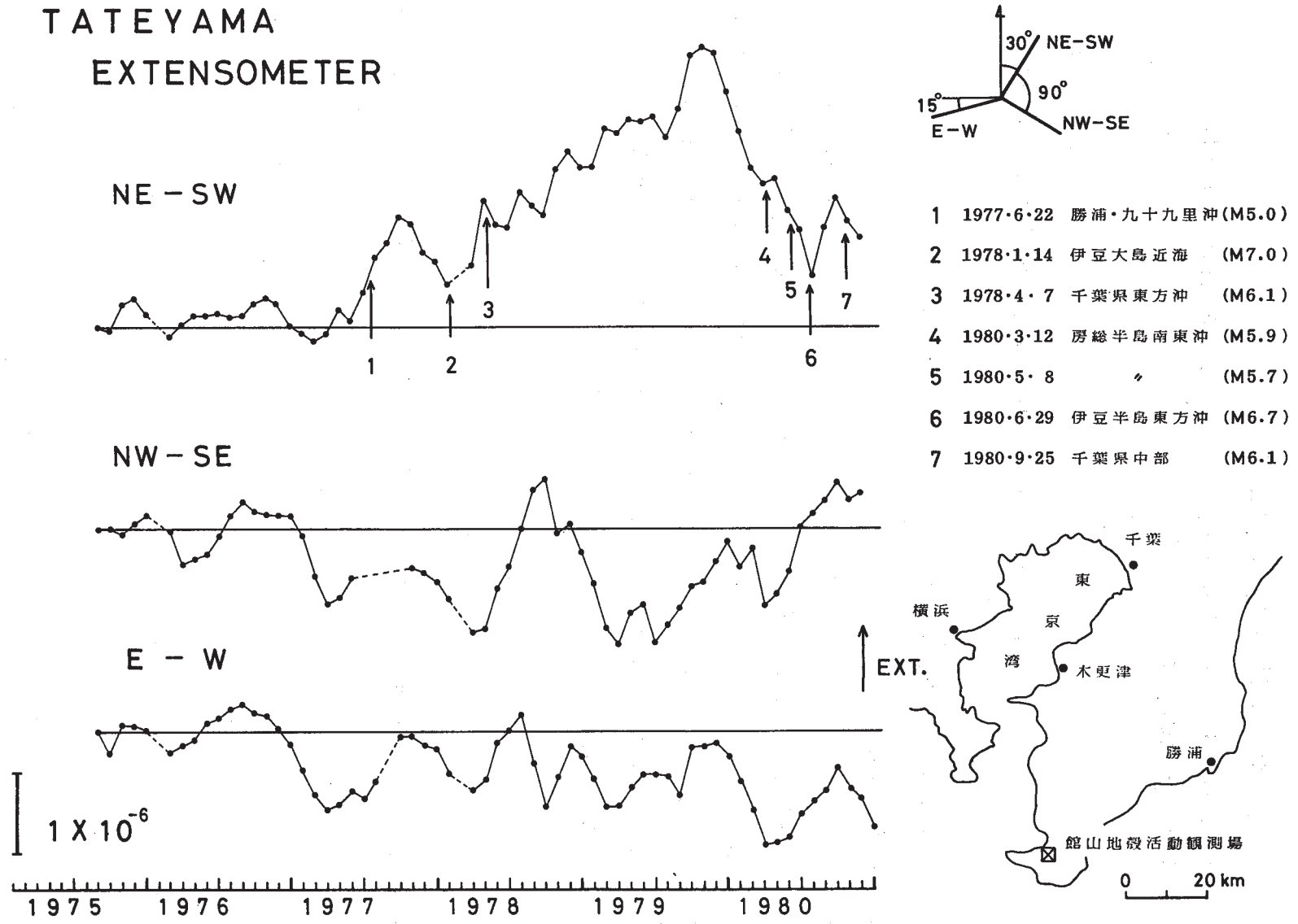
館山地殻活動観測場の水晶管伸縮計による月平均伸縮変化を, 1976年8月以降前回の報告<sup>1)</sup>を含めまとめて報告する。

第1図は, 伸縮計の各成分の経年変化を示したものである。NE - SW成分はマグネセンサーに変えた1978年1月以降伸びが卓越し, 同年2月から1979年10月末までその量は $2.7 \times 10^{-6}$ となりそれ以降1980年6月までほぼ同量の圧縮を示し, その最大圧縮付近で1980年伊豆半島東方沖地震(M6.7)が発生している。参考のため館山を中心とした半径約80km以内の有感地震のうち $M \geq 5.0$ のものを矢印で図に示した。NW - SE成分およびE - W成分には年周項がみられるが, これを除くと有意な変化はないようである。

#### 参 考 文 献

1) 国土地理院地殻調査部: 館山における地殻変動連続観測(3), 連絡会報, 22(1979), 43.

# TATEYAMA EXTENSOMETER



第1図 館山における地殻伸縮

Fig. 1 Strain changes in Tateyama Crustal Observatory.